



SciREXセンターインターンの声 2018

2019.04.24
SciREXセンター

◆ 目的

政策研究、政策実務に関心のある学生に対し、実践的な業務経験を提供することにより、学生の皆様の学修の深化に寄与するとともに、政策研究、政策実務に対する理解を深めていただき、当分野に携わる人材の裾野を拡大するため、インターンを募集します。

◆ 採用人数：年間10名程度

◆ 採用期間：2019年4月から2020年3月末まで

◆ 修了要件

- ✓ 修了前にプロジェクトリーダーとSciREXセンターに対して、研究・調査内容についてその成果を報告
- ✓ 修了に必要な勤務時間は、70時間

◆ 実績

| | | |
|-------|----|--|
| 2015年 | 7名 | 東京大学、東京工業大学、京都大学 |
| 2016年 | 8名 | 東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、大阪大学 |
| 2017年 | 7名 | 東京大学、一橋大学、九州大学、滋賀大学 |
| 2018年 | 8名 | 東京大学、東京外語大学、中央大学、一橋大学、GRIPS、留学前ギャップイヤー |



プロジェクト：「イノベーションシステムを推進する公的研究機関の制度的課題の特定と改善または経済社会的効果測定指標の開発」

今回のインターンでは「日本の大学に置ける学際性の数量化と分析」に取り組みました。日本の大学における学際性を論文のメタデータを通して定量化するという内容のプロジェクトでした。私はデータセットの生成と分析に取り組みました。

アカデミアの研究がどのようにして政策につながるか、特に科学技術研究の定量化に興味があり今回のインターンに応募しました。インターンでは課題テーマと自分の興味が合い、とても意欲的に取り組むことができました。課題を通して今後の研究の展望、特にデータマイニングによる新たな可能性が見えて来ました。

一ヶ月間のインターンを通しハードとソフトスキル両方を伸ばすことができ、さらには政策研究に対する新たな知見を得ることができたため、大変貴重な経験となりました。



プロジェクト：「経済社会的効果測定指標の開発」

私がインターンとして参加した「経済社会的効果測定指標の開発」プロジェクトでは、今後の研究開発部門への投資が雇用労働市場にどのような影響を与えるかについて探求しています。プロジェクト・リーダーの黒田昌裕先生は、産業連関表を用いて産業・（産業内での各）部門での労働需要関数の推定をこれまでに行っておられ、私は家計の労働供給についての分析を担当しました。

本プロジェクトでは労働市場モデルの構築を目的としていますが、経済モデルでありながら現実的な描写に力を注いでいる点に本プロジェクトの特徴があります。なかでも、投資とそれによる技術革新が労働需要をどう変化させるか、持続可能な家計の労働供給や所得分配はどのようなものかに特に関心をもって研究を進めており（と私は認識しています）、そういったことに関心のある方は応募されると良いと思います。



プロジェクト：「政策形成のフレーミング、ステークホルダー分析、プロセスの構築を通じた政策形成プロセスの改善手法の開発」

私が携わったPJは、政策形成プロセスとエビデンス（科学的根拠）の関連性を多面的に考察する点に特徴があります。行政効率化のための研究成果を出すのは勿論のこと、それらが政策担当者に受容されるためには何を工夫すべきか、という複雑な課題の一端を担わせて頂きました。

インターン期間中には統計的な分析手法を学びつつ、それを実際の政策分析・評価に応用する形で論文執筆を行いました。加えて、「政策のための科学」に取り組む研究者の方々のためのセミナーやシンポジウムに参加させてもらったりと現状の課題を肌身で感じることもできました。

研究者と政策担当者との間で必要なエビデンスに関する認識に乖離がある、という問題意識を持ったことが応募のきっかけでしたが、実際に政策のためのエビデンス構築に携わる研究者の方々にお話を伺ったり、海外の事例を取り上げて分析を行ったりと、さまざまな利害関係者の立場から問題にアプローチすることができる大変有意義な活動でした。

自らの興味関心に応じてかなり自由に問題設定ができるので、特定分野を深く掘り下げて探求したいという方は是非応募してみてください。



プロジェクト：「国家的課題に対応した戦略的政策シナリオ及びその作成手法の開発」

外資系IT企業での勤務を経て、大学院で科学技術イノベーション政策を学ぶ直前に、本インターンシップの機会を頂きました。

業務内容は、「破壊的・インクルーシブ・イノベーション」をテーマにした国際シンポジウムの運営と、Industry4.0に関する国際機関のレポートのためのリサーチでした。普通では関わることのできない、注目のテクノロジースタートアップや、海外の研究の第一人者と仕事をすることができ、貴重な経験になりました。本インターンシップを通して、自分自身の研究テーマや問題意識を再構築できたと共に、テクノロジーを社会全体に還元するための取組みの最新動向を知ることができました。

政策研究をリードするGRIPS直属組織のため、より実践的な学びの機会を探している方にオススメです！



プロジェクト：「経済社会的効果測定指標の開発」

私は政策に密接に関連した研究を行う方法を学びたいという動機で、今回のインターンシップに参加しました。今回のインターンシップでは、イノベーションに関連する政策効果測定の研究課題に取り組ませていただきました。政策担当者がどのような種類の研究に興味があるのか、どのように彼らに専門知識をわかりやすく説明するかなどを強く意識して研究を進めることが要求され、今までに自分にはなかった視点でアカデミックな研究を見つめることができる貴重な経験をさせていただきました。

政策当局への就職を目指す人だけでなく、アカデミックな道で生きていこうと考えている社会科学系の学生にとっても、研究が政策を通じて社会に生かされるプロセスを考える視点を学ぶことは重要なことだと思います。SciREXインターンはそのような視点が得られる、貴重な場を提供してくれます。

